



Proofpoint Cybersecurity Academy

Proofpoint Certified Guardianになる



形式

インストラクター主導型トレーニング (ILT)、
バーチャル インストラクター主導型トレーニング (VILT)、顧客施設でのオンサイトトレーニング (OS)

期間

3日

対象

顧客、パートナー、メッセージング管理者、
セキュリティ アナリスト

推奨学習

Proofpoint Level UP 学習パス : アナリスト
向け Email DLP

はじめに

Proofpoint Information Protection Analystの推奨学習コースは、サイバーセキュリティ担当者に、プルーフポイントの高度なAnalyticsダッシュボード、Proofpoint ITM (Insider Threat Management)、Proofpoint Cloud DLPといった製品を効果的に使用するための専門知識を提供します。このコースは、洗練されたデータ分析、脅威封じ込め、インシデント管理などの重要なサイバーセキュリティ タスクに焦点を当て、アナリストに、データを保護し、不注意、悪意のある、または侵害されたユーザーによるリスクのある行動を検知するために必要なスキルを提供します。このコースでは、情報保護アナリストのスキルセットに焦点を当てた実践的な体験を提供するとともに、Proofpoint Analytics を使用して一般的な情報保護のユースケースに対処するためのラボ環境を提供します。

コースシラバス

インシデント レスポンスの基礎 : このレッスンの学習内容

- Proofpoint Information Protectionソリューションが情報漏えいの特定、防止、修復を行う仕組み
- Proofpoint Endpoint DLP、Proofpoint ITM (Insider Threat Management)、Cloud App Security Broker (CASB)、Email DLP製品
- インシデント レスポンス ライフサイクルと、許可されたガイドラインに従うことが組織にとって最善である理由

準備段階 : このレッスンの学習内容

- ランブックにあるものを含め、利用可能な重要リソース
- プルーフポイントのトレーニング、ドキュメント、ナレッジリソースの検索方法
- セキュリティ インシデントが発生する前に備えることで自信を高める方法

検知と分析：このレッスンの学習内容

- 不審なアクティビティを検知する能力に影響を及ぼす可能性のあるシステムまたは通信の問題を特定
- 情報保護の一般的なユースケースを示すアクティビティやアラートを特定
- Analytics アプリケーションを使用して重要なアクティビティを特定し、アラートやアクティビティのトリアージの順位を判断
- アクティビティが、組織が定義するリスクのある行動に当てはまるかを判断
- アラートがアクティブなリスクまたは解決済みであるかを判断
- 環境または監視のルールへの変更によって防止できると思われる、誤検知アラートの動向を特定
- Analytics のワークフロー ツールを使用して、ステータス、オーナー、エスカレーション、アラートのタイムラインを追跡

封じ込め、根絶、復旧：このレッスンの学習内容

- インシデントレポートを作成し、経時的な動向を表示
- セキュリティツールのインストール、構成、メンテナンスに関する推奨事項を提供
- タイムライン、ユーザー、デバイス、戦術を含む、インシデントに関連したアクティビティやアラートの詳細を記載した、完全なインシデントレポートを提示
- 今後のイベントを回避するための方法に関する推奨事項を提示

インシデント後の活動：このレッスンの学習内容

- 情報保護インシデントに関連したエビデンスを保持し、タイムラインを構築してイベント後レポートを作成
- 今後のインシデント防止に役立つ、アラートまたはアクティビティの動向を確認
- ルール、ディクショナリー、ポリシーへの変更を提案し、プラットフォームの効率を向上
- Endpoint DLPとCloud DLPのアクティビティ レポートを生成

このコースと関連テストは、NIST SP800-61 r2 コンピューター セキュリティ インシデント処理ガイドラインをもとに作成されています。この情報は通常、SANS Incident ResponseやISO 27001および270035など、他のガイドラインに適用できるものです。

プルーフポイントについて

Proofpoint, Inc. は、サイバーセキュリティのグローバル リーディング カンパニーです。組織の最大の資産でもあり、同時に最大のリスクともなりえる「人」を守ることに焦点をあてています。プルーフポイントは、クラウドベースの統合ソリューションによって、世界中の企業が標的型攻撃などのサイバー攻撃からデータを守り、そしてそれぞれのユーザーがサイバー攻撃に対してさらに強力な対処能力を持てるよう支援しています。また、Fortune 100 の 85% の企業などさまざまな規模の企業が、プルーフポイントのソリューションを利用しており、メールやクラウド、ソーシャルメディア、Web 関連のセキュリティのリスクおよびコンプライアンスのリスクを低減するよう支援しています。今日から Proofpoint Certified Guardianになりましょう。詳細はwww.proofpoint.com/jpでご確認ください。



プルーフポイント認定資格

Proofpoint Information Protection Analyst

形式

テストはオンラインで利用可能:
<https://www.certiverse.com>

期間

最大90分

対象

このテストは、サイバーセキュリティ スキルを高め、サイバー脅威との戦いにおいてプルーフポイント製品を最大限に活用することを求める、ITセキュリティ担当者、セキュリティ アナリスト、トリアージ アナリスト、インシデント対応者に最適です。

推奨学習

Proofpoint Information Protection Analyst
コース

概要

Proofpoint Information Protection Analyst テストは、サイバーセキュリティ担当者に、プルーフポイントの高度な Analytics ダッシュボード、Proofpoint ITM (Insider Threat Management)、Proofpoint Cloud DLP といった製品を効果的に使用するための専門知識を提供します。この認定テストは、洗練されたデータ分析、脅威封じ込め、インシデント管理などの重要なサイバーセキュリティ タスクに焦点を当て、アナリストに、データを保護し、不注意、悪意のある、または侵害されたユーザーによるリスクのある行動を検知するために必要なスキルを提供します。

主要コンポーネント

- ・ インシデント レスポンスの基礎：サイバーセキュリティ インシデントを認識して対応。
- ・ 準備：組織が機密であるとみなす情報を判断。プルーフポイントのインテリジェンスと組織の手順を組み合わせることで、潜在的なデータ侵害に対応。
- ・ 検知と分析：プルーフポイントのソリューションを使用して DLP アラートの有効性を判断し、組織のデータ処理ポリシーに対する違反を分析。
- ・ 封じ込め、根絶、復旧：インシデントが防止または自動的に修復されているか判断。侵害を封じ込める方法や、軽減や復旧のためのエスカレーションの必要性を判断。
- ・ インシデント後の活動：徹底的なインシデント後分析により、今後の対応戦略の強化、誤検知の削減、手順の最適化。
- ・ 運用手順：運用ベストプラクティスの向上と監視により継続的なセキュリティ管理を実現。

メリット: プルーフポイントの業界有数のセキュリティ製品に関する、詳細な知識と実務経験を提供します。このテストに合格して認定を取得すると、複雑なサイバー脅威から保護できる能力を実証できます。サイバーセキュリティの課題に対処するためのツールと自信を得ることができます。情報漏えいから組織を保護することに取り組む、サイバーセキュリティ エキスパートのコミュニティに参加しましょう。

プルーフポイントについて

Proofpoint, Inc. は、サイバーセキュリティのグローバル リーディング カンパニーです。組織の最大の資産でもあり、同時に最大のリスクともなりえる「人」を守ることに焦点をあてています。プルーフポイントは、クラウドベースの統合ソリューションによって、世界中の企業が標的型攻撃などのサイバー攻撃からデータを守り、そしてそれぞれのユーザーがサイバー攻撃に対してさらに強力な対処能力を持てるよう支援しています。また、Fortune 100 の 85% の企業などさまざまな規模の企業が、プルーフポイントのソリューションを利用しており、メールやクラウド、ソーシャルメディア、Web 関連のセキュリティのリスクおよびコンプライアンスのリスクを低減するよう支援しています。今日から Proofpoint Certified Guardian になりましょう。詳細は www.proofpoint.com/jp でご確認ください。